



307・955km/hというマキシマムスピードは、国産車はもとより外車を含んでも、前人未踏の大記録である。

この大記録の立役者となったのは、大阪のチューニングショップ、トリアルである。

トリアルというショップ、それ自体の歴史は浅いけど、トリアルの前身は、チャレンジというショップであった。

このトリアルはチャレンジ時代から、谷田部の最高速トリアルに熱心であった。それは、チューナーである牧原道夫が贈ける執念でもあった。S30フェアレディZのルーフを8cmも切りつめたチヨップド・ルーフにして、少しでも空気の抵抗を少なくしようとしたり、とにかく最高速へのチャレンジ精神は旺盛で、ストリート最高速の東北のストリートなどではかなりの実力を見せていた。

河内長野のチャレンジから、東大阪のトリアルになってからは、本誌の谷田部トリアルにも積極的に参加、関東のショップが谷田部にくるのと違い、時間の面でも、費用の面でも、かなりの負担になるはず。

こういった面では拍手を送ってもいいくらいだ。

さて、今回の307・955km/h、当日、谷田部へ来た誰もが、トリアルが打ち立てるとは、正直なところ思ってもいなかったはず。いわばダークホース的存在だったが、自己のベストを28km/hも延ばす実力は、一時期ナリをひそめていた関西パワーの復活といってもいいのではないだろうか。